

塾・予備校から見る地方都市間における教育格差

—埼玉県川越市及び福井県小浜市を事例に—



埼玉県立浦和高等学校
2713 小川智己

[KEYWORDS: 教育格差、地方都市、埼玉県川越市、福井県小浜市]

I. 研究の背景

近年、教育の機会に関して、特に大都市圏(東京を中心とする)とその他の地方都市間での不均衡が顕著になっていることが指摘されている。この格差は時間の経過とともに拡大しており、教育における地域間の不平等問題が深刻化している(耳塚 2007)。

しかしながら、地方都市間の教育格差に関する研究は少なく、その実態は明らかではない。本研究では、地方都市における教育格差を明らかにするため、川越市および姉妹都市である小浜市とその周辺を教育サービスのアクセシビリティの観点から地理学的分析を行う。本研究は、**地方都市における教育の現状とその地域特有の問題点を明らかにし、それに基づいた解決策を提案する。**

II. 調査・結果

使用データ: 2020年国勢調査、タウンページ、川越市教育委員会、小浜市教育委員会、2023年度大学入学共通テスト 自己採点集計データベース、21世紀出生児横断調査

[Theme1 小中学校での教育格差]

①塾数に対する年少人口(2020)

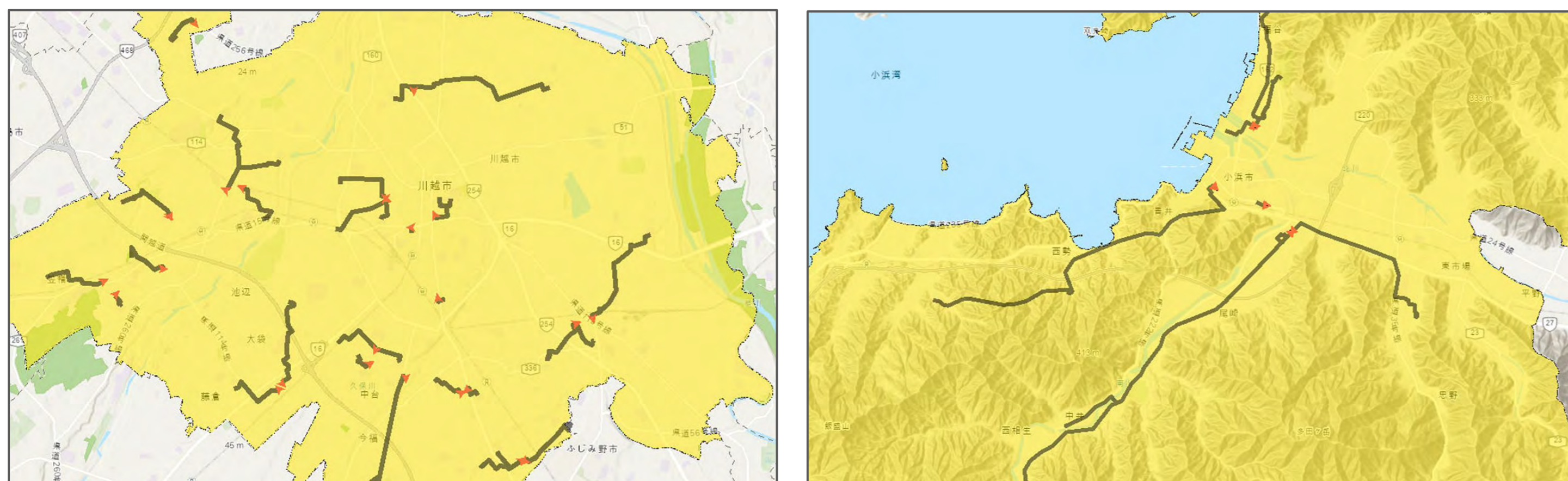
市区町村	塾数(校)	年少人口(人)	人口対塾数(人/校)
川越市	93	36,460	392.04...
小浜市	6	3,479	579.83...

約1.5倍!

②小学校から塾までの道のりの算出 (範囲: 同)

川越市の平均値⇒1.09km
小浜市の平均値⇒4.14km
約4倍の差!

小学校から塾までの最短距離



タウンページより作成 (最終閲覧日: 2024年1月19日)

※図中の矢印は、「小学校→最短距離の塾」のことを指す。

③2023年度学力テスト(全国学力学習調査)の比較

小学校	川越市	小浜市	全国	中学校	川越市	小浜市	全国
国語	66	67	66	国語	69	71	69
算数	61	66	63	数学	51	55	51
理科	63	67	63	理科	49	53	49

川越市教育委員会、小浜市教育委員会より作成 (最終閲覧日: 2024年1月19日)

小浜市と川越市の塾の数において約1.5倍の差がある。小浜市内は特に個人塾が多く、小学生から大学受験まで幅広い層への対応を迫られるため、塾及び塾講師にかかる負担が川越市と比べ重く、教育サービスの質の低下が懸念される。また、川越市と比べ小浜市は塾までの道のりが長い傾向にある。小浜市内の地域別に比べても塾へのアクセスが異なり、山間部などでは小浜市内の塾が中心部に集中していることもあって、通学が難しいことが明らかになった。しかし、学力テストの結果からは、小浜市の平均学力がどの科目も川越市や全国平均を上回っている。このことから、**公立学校や家庭での学習が学力不足を補い、教育格差を十分に緩和している可能性が示唆される。**

[Theme2 高校での教育格差及び進学への影響]

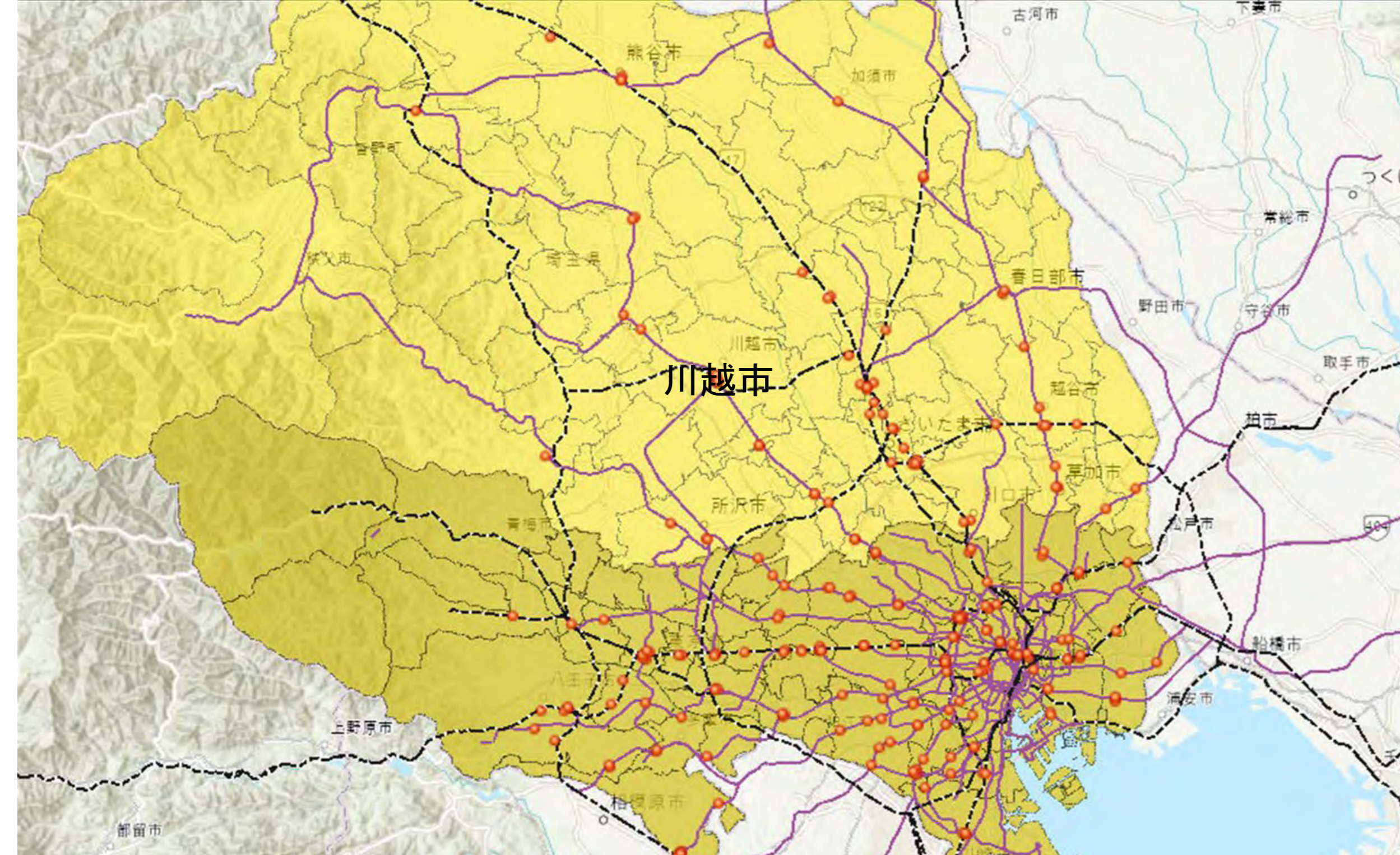
④大手塾・予備校の塾数の算出 (範囲: 川越市→埼玉県・東京都、小浜市→福井県・滋賀県・京都府)

川越市周辺(埼玉県・東京都)→246校

小浜市周辺(福井県・滋賀県・京都府)→65校

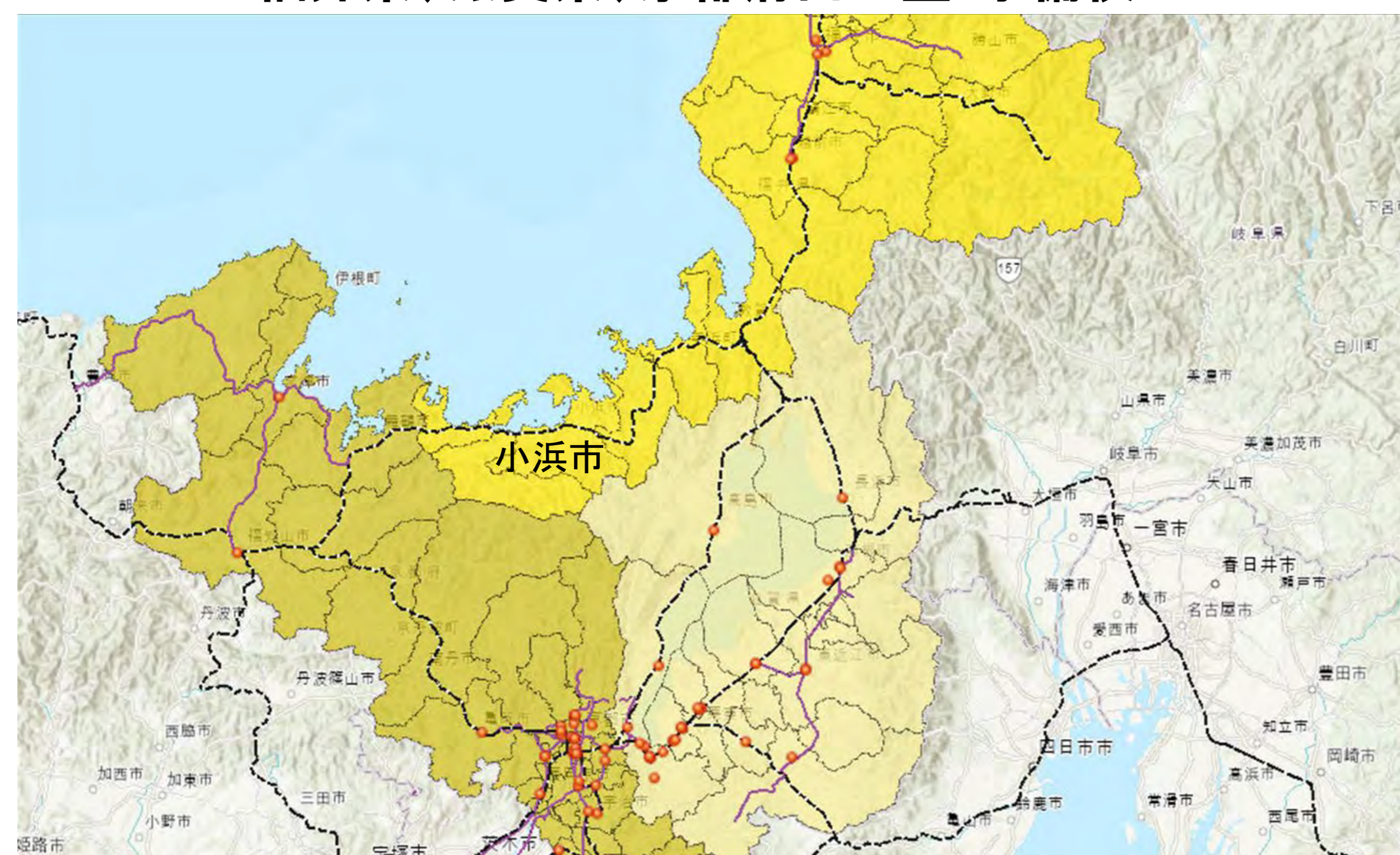
※大手塾・予備校とは駿台予備校、河合塾、代々木ゼミナール、東進ハイスクール、四谷学院、臨海セミナー、早稲田アカデミー、その他系列校のことを指す。

埼玉県、東京都内の塾・予備校



タウンページより作成 (最終閲覧日: 2024年1月19日)

福井県、滋賀県、京都府内の塾・予備校



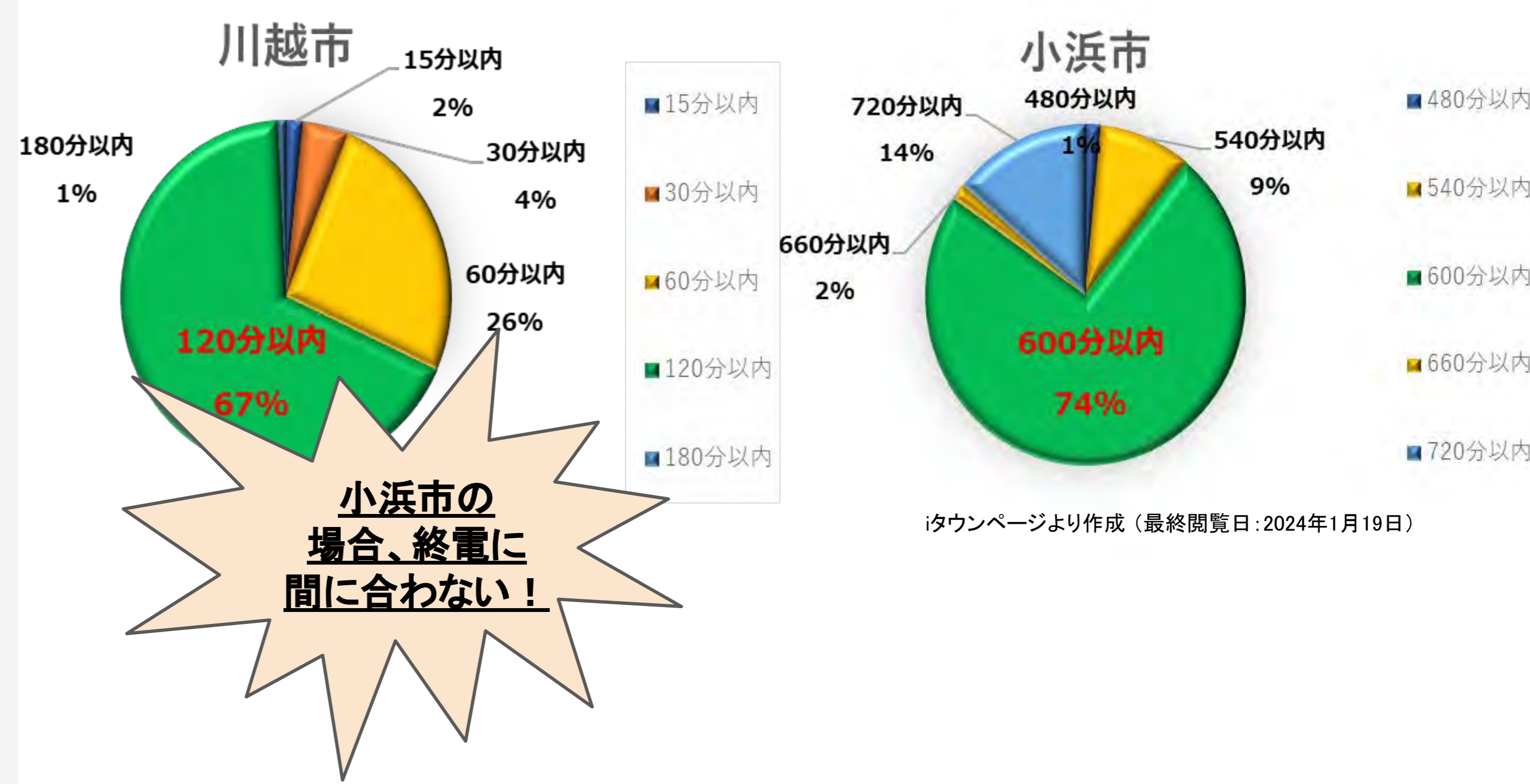
タウンページより作成 (最終閲覧日: 2024年1月19日)

※紫の線は私鉄鉄道網、点線はJR線、赤い点は大手塾・予備校、青い円は15kmバッファのことを指す。「15km」は自転車に乗って一時間かけて移動できる距離である。

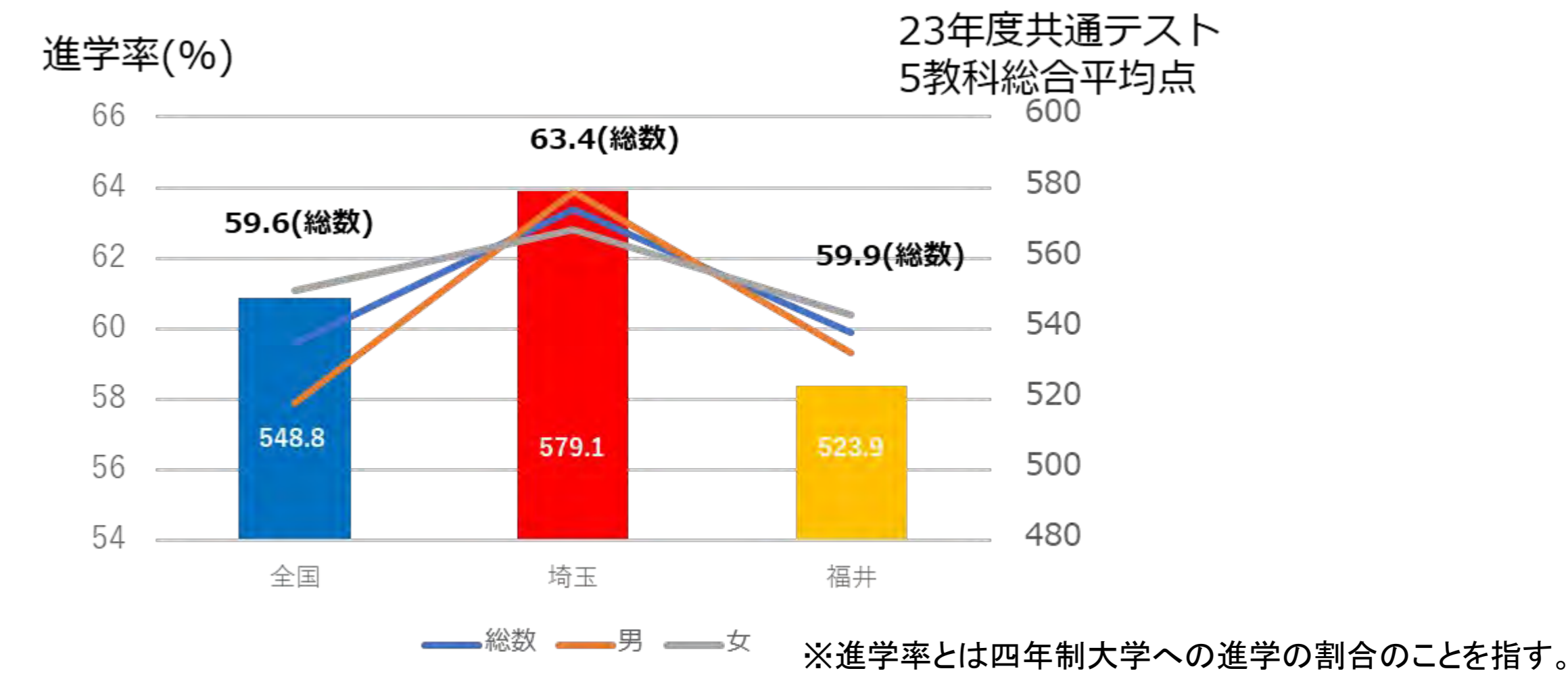
参考文献: 耳塚寛明 2007. 小学校学力格差に挑む だれが学力を獲得するのか, 教育社会学研究 (80)23-39.
秋元菜摘 2016. 一極集中型コンパクトシティ政策の有効性に関するアクセシビリティのシミュレーション分析—青森市における人口の集約化と公共交通の多頻度化—, 地学雑誌 125 (4) 523-544.

⑤大手塾・予備校から地方都市の中心駅までにかかる時間の算出 (範囲: 同)

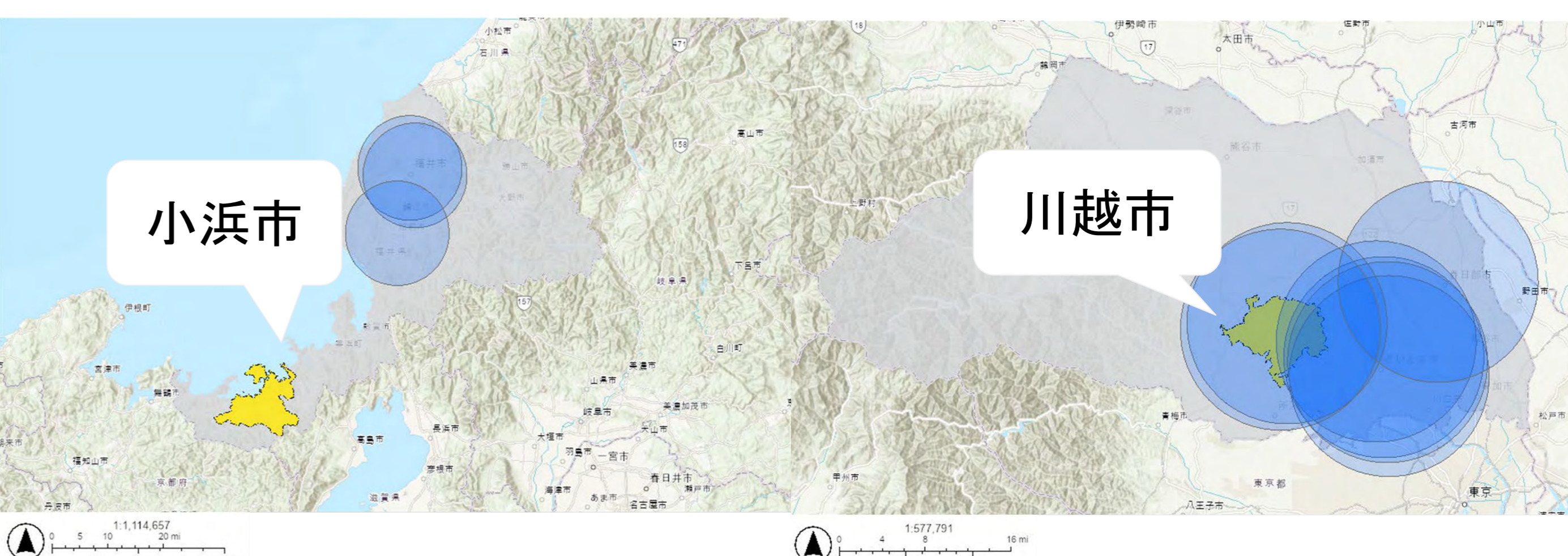
各塾・予備校が平日21時半に終了し、生徒はその時点から中心駅(川越駅、小浜駅)まで帰りはじめると考えて、時間を算出した。



⑥共通テスト5科目の平均点及び都道府県別高等学校卒業者の進学率(2022)の比較



⑦各進学校の所在地(15kmバッファ)



⑧インタビュー

小浜市内の観光案内所にいた母親の話

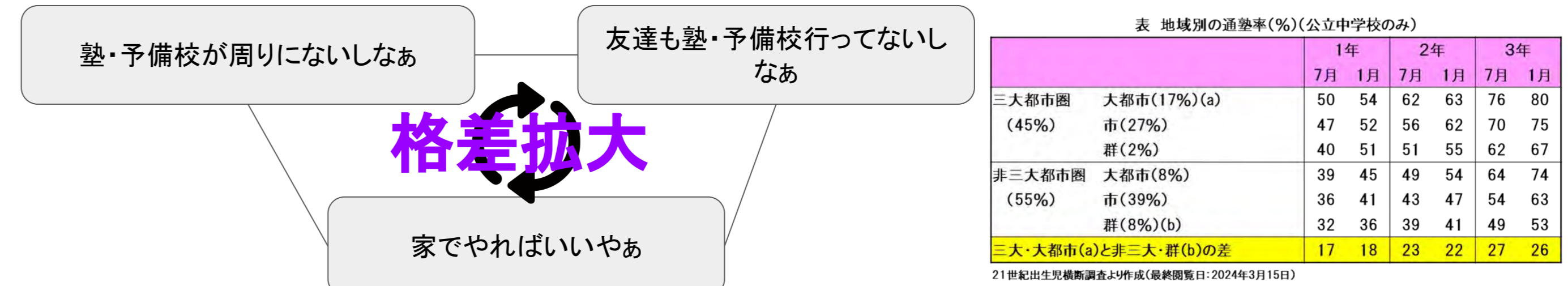
小浜市は三世帯住宅が多くて、家に帰ってきたら、祖母のどちらかがいる状態です。ですから、学校の宿題をやってから、遊ぶ子が多いです。だから、塾について話題はあまりないですね。まず、塾がありません、全く気にしていないもんですから。

埼玉在住の小学生の父親の話

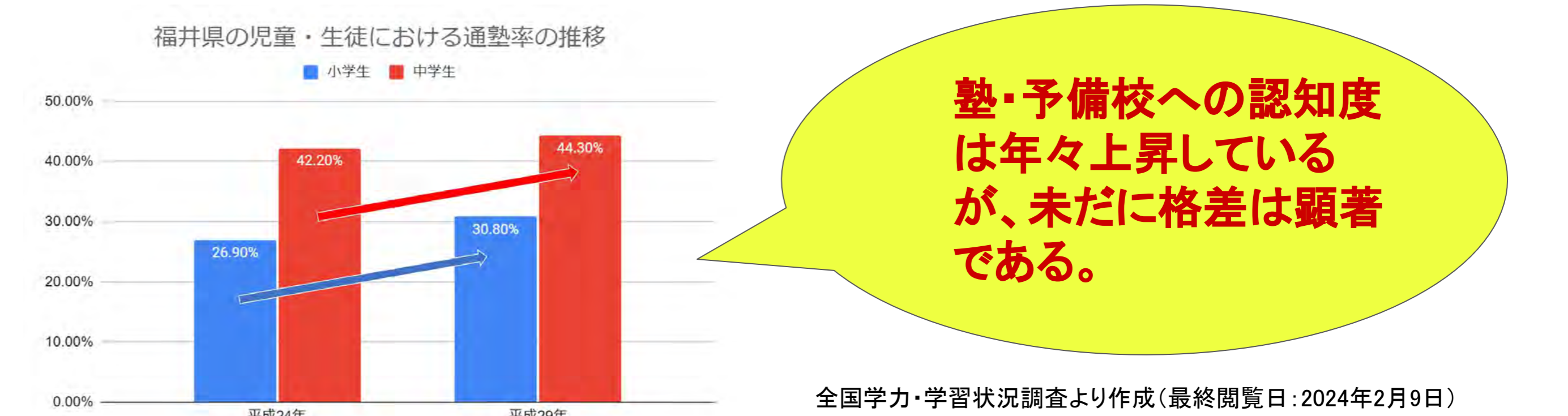
三重県から埼玉に来て思ったことは、ママ友のネットワークがものすごく強いことです。「〇〇君はもう算数ができるんだって...」「××君はもう塾に行つたみたいよ...」みたいな話が耳にたくさん入ってきて、こっちも入らなきゃと急かされた気分になります。

本研究では、小浜市と川越市の高等教育機会における環境および情報の不均衡が顕著であり、特に高校生にとって通学が難しい状況が示された。交通手段の限界や遠方の大手塾へのアクセスの難しさが学外教育に影響を及ぼす。大学受験が多様化しているなか、個人塾は大手塾と比べ大学受験の情報収集力が劣るため、環境格差と同時に情報格差も見られる。この不均衡から**福井県の学力が埼玉県に比べて低いことの一因だと考えられる。**

地理的格差は、また進路選択に重大な影響を与えている。川越市の生徒は充実した交通インフラを利用して容易に進学校へ通えるが、小浜市では交通の不便が生徒を地元の限られた選択肢や教育の質、大学進学への機会を制限する。また、既存の環境を「普通」だと捉えてしまうことで他との格差を感じにくいという弊害も生じている。従って大都市圏に遠い地方都市ほど学外教育を利用しにくいことが分かる。



III. 課題に向けた解決策



塾・予備校への認知度は年々上昇しているが、未だに格差は顕著である。

以上の顕在している課題(特に高等学校)をできるだけ解消すべく、主に3つの案を提案する。

①学校環境の改善
⇒情報格差の是正のため、大手塾・予備校ならではの受験情報やノウハウ、教材を購入し、教職員を増やすことで高校内で志望校別の指導及び本番さながらの実戦演習を行う。また校内だけでなく周りの進学校と競争させることで切磋琢磨させる。

②メタバースの積極的活用
⇒メタバース空間で授業を行うことで、疑似的な対面授業を実現することができる。

③コンパクトシティによる格差解消
⇒中心地区に集中させることで、家から学校・塾までの距離などの地理的格差を解消する。

小浜市は小中学生まで川越市や全国平均よりも学力が高いため、地理的環境格差及び情報格差を是正することで、潜在能力を最大限に引き出すことができる。

またあえて理想像を転換するならば、**塾・予備校へ通って成績を上げる大都市型の教育ではなく、その人を磨く職業人教育に重点を置くという考えも有効である**と考える。